

3月の安全運転ごよみ

1日(日)～7日(土) …車両火災予防運動 3日(火) …ひな祭り 7日(土) …消防記念日
20日(金) …春分の日 23日(月) …世界気象デー

3月のテーマ

2025年中の交通死亡事故

2025年中の交通事故による死者数は、2,547人(前年比-116人、-4.4%)でした。しかしながら、未だに1日に、平均7人もの方が亡くなっています。

今月は、2025年中の交通事故の発生状況と、当社の事故サポートサービスをご利用いただいている企業様の事故実態を報告いたしますので、今後の交通事故防止に活かしてください。



交通事故死者の半数以上が高齢者

2025年中の交通事故発生状況

死者数 2,547人
(前年比 -116人 -4.4%)

負傷者数 338,294人
(前年比 -6,101人 -1.8%)

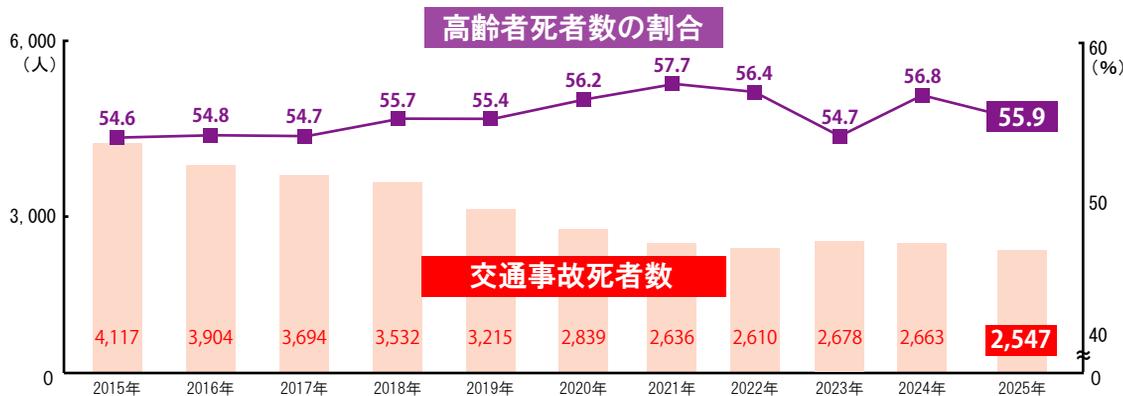
発生件数 287,236件
(前年比 -3,659件 -1.3%)

(死者数は交通事故発生後24時間以内に死亡した人数をさす。発生件数、負傷者数は速報値)

2025年中の交通事故による負傷者数は6,101人減少し、事故発生件数も3,659件減少しています。しかしながら、高齢者の死者数が全死者数に占める割合は55.9%と、依然として高い状況にあります。また、交通事故死者の約半数は、歩行中と自転車乗用中に被害に遭っています。

そのため、運転中は「歩行者優先」を徹底して、子どもや高齢者を始めとする「歩行者の安全確保」に努めましょう。

また、4月からは自転車に対する交通反則通告制度の導入に伴い、車道を走行する自転車の増加が予想されます。自転車の走行状況にも注意して、ふらつきや急な進路変更等を予測しながら運転してください。



「警察庁：令和7年中の交通事故死者数について」より

SMAサポート事故分析

ここからは、当社の事故サポートサービスをご利用いただいている企業様の交通事故(2025年1月~12月)についてご紹介いたします。

どのような事故が発生しているのか?

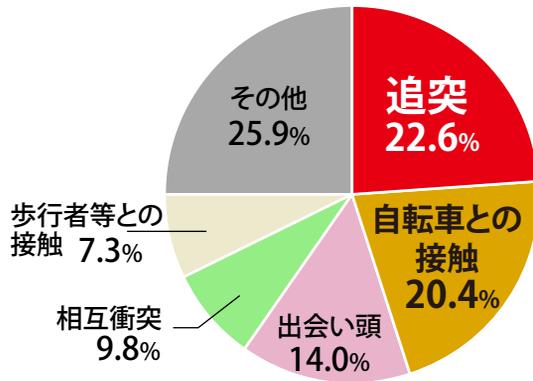


図1：人身事故 類型別事故構成比(対ひと、自転車、二輪、四輪)

2025年の当社事故サポートサービスをご利用車両の人身事故について、類型別構成比を見ると「追突」の割合が最も多く、次いで「自転車との接触」となっています(図1)。

全体の傾向としては例年と大きな違いはありませんが、上位2タイプの全体に占める割合は昨年から2.2%減少しており、衝突被害軽減ブレーキやブラインドスポットモニターの普及が、追突や接触事故の低減に寄与していると考えられます。一方で、出会い頭や相互衝突事故の割合が2.0%増加しており、自動車の安全機能だけでは防ぎきれない事故が目立ってきているとも考えられます。

車両の安全機能を有効に活用しつつも、カメラやセンサーにも死角や作動条件があることを意識し、引き続き安全確認を徹底した運転を心掛けましょう。

駐車場・構内では後退中の事故が多発

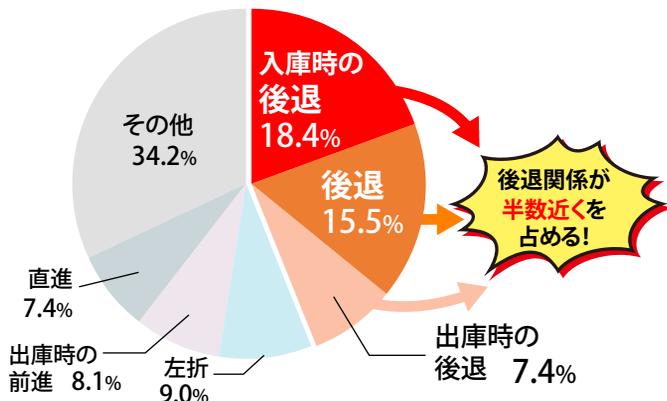


図2：駐車場・構内事故 自車の動き別事故件数

場所別の事故件数で最も多いのは例年通り駐車場・構内であり、多くのお客様が課題とされている状況に変化はありません。

「駐車場・構内事故」を行動別にみると、「後退」関係の事故が半数近くを占めています(図2)。

後退するという行為は、運転経験の長短にかかわらず、人が最も不得手な行動です。

後退時には死角の増加による見落としや、操作ミスによる危険性が増加します。

- 駐車場・構内で事故を防止するためには、
- ・駐車する場所や周囲に衝突の可能性が無いことを確認する
 - ・後退前に周囲の安全確認を徹底する
 - ・後退はアクセルを踏まず徐々に動き、安全確認を怠らないといったことに注意しましょう。

管理者として
知っておきたい知識

車が自転車などの右側を通過する際のルール新設

2026年4月1日の改正道路交通法施行により、自動車が、自転車などの右側を通過する際に、両者の間に十分な間隔がない場合は、自転車などとの間隔に応じた「安全な速度で走行」する義務が生じます。

